

リコード班 進捗報告

大野賀 政昭

1. 前回会議後の活動状況

1) ICD-11 V 章への項目対応リコードの実施

要介護認定調査項目、FIM、Barthel の 3 つのアセスメントツールについて、ICD-11 v 章への項目対応リコードをリコード班員で実施した。

FIM、Barthel についてはある程度リコードができたが、WHO-DAS 項目である VA 分類で対応がみられたのは 6 項目（VA01 記憶機能、VA02 問題解決、VA14 歩行、VA20 自分の体を洗うこと、VA21 更衣、VA22 食べること）であった。

一方、要介護認定調査項目は、ICD-11 v 章の項目対応が難しく、WHO-DAS の 6 つの領域（VA 分類の 1 桁のレベル）レベルでのリコードでもいいのではないかという意見もあった。なお、上記のほかに、要介護認定調査項目で WHO-DAS 項目である VA 分類で対応がみられた内容は、VA05 会話、VA23 日課の遂行があった。

それ以外の内容として、VC32 健康に注意すること、VC40 調理、VC31 排泄、VB90 排尿機能が、要介護認定調査項目、FIM、Barthel に共通して対応していた。

ここでの項目対応リコードの目的は、ICF の構成要素の確認および ICF の構成要素にそった情報の抽出である。

なお、点数化ルールの作成については、ICF 項目による評価と対象アセスメントツールでの評価を基本的に同じ対象に対して実施した調査データがないと点数化ルールを作成する行うことが難しい。今後、フィールドテスト班と連動し、要介護認定調査項目、FIM については、点数化ルール案の作成を念頭においた調査の実施を検討していく予定。

今後は、これまでの作業結果を WG 全体に展開していくとともに、ほかのアセスメントツールの作業を実施していく。作業を通じて得られた考え方を、年度末を目途としてまとめていくことを予定している。

2) ICF リコードに関する研究紹介

において、the refined ICF linking rules が Cieza, A.ら（2019）によって示され、これを用いた 既存アセスメントの比較、・ コアセットの開発が実施されている。この内容について、リコード班で共有し、作成中のリコードルールへの反映を検討している。

Cieza, A., Fayed, N., Bickenbach, J., & Prodinger, B. (2019). Refinements of the ICF Linking Rules to strengthen their potential for establishing comparability of health

information. Disability and rehabilitation, 41(5), 574-583.

Ballert, C. S., Hopfe, M., Kus, S., Mader, L., & Proding, B. (2019). Using the refined ICF linking rules to compare the content of existing instruments and assessments: a systematic review and exemplary analysis of instruments measuring participation. Disability and rehabilitation, 41(5), 584-600.

Fresk, M., Brodin, N., Grooten, W. J., Joseph, C., & Kiessling, A. (2019). Mapping a measure of physical ability for persons with long-term musculoskeletal pain to the ICF and ICF Core Sets. European journal of public health, 29(2), 286-291.

Rø, Y., Buchbinder, R., Grotle, M., Whittle, S., Ramiro, S., Huang, H., ... & Østensjø S. (2020). What do the OMERACT Shoulder Core Set candidate instruments measure? An analysis using the refined ICF linking rules. The Journal of Rheumatology.

3 .「ICF リコードの考え方」の作成方針

前回委員会においては、ICF リコードについて「項目対応作成ルール」や「点数化ルール」を示していくことを提案した。しかしながら、要介護認定調査、FIM、Barthel の ICF 項目や ICD-11 V 章へのリコードを進める中で、リコードの考え方や目的、方法について体系的にとりまとめるとともに、既存の取り組みをこの考え方にそって捉えなおすことが重要ではないかという意見がでた。

そこで、リコード班の活動を通して得られた知見を「ICF リコードの考え方」という形で取りまとめていくこととしている。現時点の構成案は以下の通り。

「ICF リコードの考え方」構成案

・リコードの考え方と目的

・リコードの考え方を示すとともに、以下のいくつかの目的を示すとともに、どの方法をとるか解説する。

・リコードの方法

・海外の動向を踏まえつつ、WG 提案としての日本におけるリコードルールを示す。

・リコード例（項目対応、点数化）の提示

・リコードルールにそった項目対応、点数化の例を提示しつつ、留意事項を示す。

・さまざまな ICF を用いた実践例の紹介

・どのように ICF を用いているか、リコードの考え方に照らし合わせながら解説。

4 . WG 委員への依頼事項

1) リコード班が実施した ICF リコード作業（要介護認定調査、FIM、Barthel）の確認

・「各ツールと ICF のリコード作業まとめ」へのコメントをお願いいたします。

2) リコード班に ICF リコード作業を実施してほしいアセスメントツール等の紹介

・リコード班では、日本の保健医療福祉の実践における普及やデータ量を鑑み、要介護認定調査、FIM、Barthel のリコードを進めてきましたが、保健医療福祉の各領域において、多職種の協働や包括的な生活機能情報として示していくことでヘルスケアの実践・改善に有効と考えられるアセスメントツールがあったら紹介ください。リコード班で検討し、リコード作業を進めていきたいと思います。

3) 「ICF リコードの考え方」に示す ICF を活用した各領域での実践例の紹介

・「ICF リコードの考え方」で、ICF を活用した実践を紹介するとともに、解説することでその意義を伝えるとともに、これからの実践における ICF の活用を促していきたいと考えています。委員先生方がご存じの ICF を活用した実践を紹介いただければと思います。リコード班で検討し、「ICF リコードの考え方」への掲載を検討していきたいと思います。

以上。